

『人文学学際研究』執筆要項

1. 使用言語

日本語・英語・中国語のいずれかとする。

これ以外の言語で執筆を希望する場合は、エントリー時に編集委員会に相談すること。

2. 版型

A4版 (PDF)

3. 原稿の分量

原稿の分量は以下の通りとする。分量を超過している場合は、投稿を受け付けない場合がある。

(1)研究論文・研究ノート・研究資料・特別寄稿および翻訳：

本文・要旨・註・図表等を含めて、本誌の体裁で15頁以内。

(2)研究展望：本文・註・図表等をふくめて、本誌の体裁で6頁以内。

(3)書評・学会レポート・海外レポート：本文・註・図表等をふくめて、本誌の体裁で3頁以内。

(4)翻訳：本文・註・図表等を含めて、本誌の体裁で15頁以内。これを超過しそうな場合は、編集委員会と事前に相談すること。本文とは別に、和文解題(600～800字)を添付すること。

(5)企画：内容・体裁とともに、編集委員会と事前に相談すること。

4. 版組

要旨 1段／本文・註 2段

※編集委員会で作成したテンプレートを使用すること。

5. 文字の大きさ

仕上がりは基本的に以下の文字級数で表示される。特にこれと異なる文字の大きさが必要な箇所は、原稿に指示すること。

本文 13Q (9ポイント)、註 11Q (8ポイント)、要旨 13Q、図表キャプション 13Q、表の文字は基本 12Q (8.5ポイント)。

6. 題目・章タイトルほか

副題がある場合は、前後にダッシュをつけるのを基本とする。

章タイトルは3行取り。章タイトルおよび下位の見出し表記は、編集委員会で統一を図ることがある。

7. 註などについて

「本文」「註」「引用・参考文献」「付記」の順とする。「註」のみでも、「註」と「引用・参考文献」(文献リスト)を分けても、どちらでもかまわない。註番号は、本文中では片括弧を付す。末尾の註では括弧なしとする。

8. 図・表・写真・本文中での引用について

・原稿は明瞭なものとし、本文とは別のファイル(原本)を作成する(PDFファイルが望ましい)。

・図面について：

製図は執筆者が行うこと。片段か両段かの指定をすること。

・表について：

専門業者が新しく組むことを原則とする(仕上がりに近い見本を作成する)。作成したものをそのまま製版することも、特殊な場合は認める(高度に複雑で、専用ソフトでないと作成できないようなもの)。打ち出しとともにデジタルデータ(エクセルファイル)を入稿すること。

- ・写真について：
 片段か両段かの指定をすること。
- ・割り付けについて：

9. 特殊文字や数式の使用

特殊な文字や記号・数式を使用する時には、必要な見本を添付すること。

10. 著作権への留意

他社が著作権を有する図表や写真等を使用する場合は、著者自身で著作権者からの許諾を事前に得ること。また、翻訳原稿の場合も、原著者および著作権者からの許諾を得ること。

○原稿の提出

- ・以下の原稿等を2026年8月31日（月）正午（日本時間）までに『人文学学際研究』編集委員会宛（gr-lit-hirc@omu.ac.jp）にメールで提出すること。

※その後の差し替え、追加原稿は認めない。

※エントリーの段階で事務局に連絡した情報に変更がある場合は、メールにその旨記載すること。

- ・原稿（要旨、図・表・写真を貼り込んだもの）正本1部、副本1部（副本は執筆者名を抜く）。正本、副本いずれもPDF、Word双方の形式で提出すること（合計4ファイル）。

①日本語論文の場合は、和文タイトル・英文タイトル、和文要旨・英文要旨、和文キーワード（5語）・英文キーワード（5語）をつける。和文要旨は600～800字程度、英文要旨は300～400語程度とする。

②英語論文の場合は、英文タイトル・和文タイトル、英文要旨・和文要旨、英文キーワード（5語）・和文キーワード（5語）をつける。英文要旨は300～400語程度、和文要旨は600～800字程度とする。

③中国語論文の場合は、中文タイトル・英文タイトル・和文タイトル、中文要旨・和文要旨、中文キーワード（5語）・和文キーワード（5語）をつける。中文要旨は300～400字程度、和文要旨は600～800字程度とする。

上記以外の投稿ジャンルの場合、それぞれ以下のものを添付すること。

翻訳：和文タイトル、英文タイトル、和文解題（翻訳者による解説〈翻訳文の前に置くもの〉。和文解題は600～800字程度）、原著の複写。

研究展望：和文タイトル、英文タイトル

- ・執筆者が大学院生のみの場合、筆頭著者の指導教員による推薦状（1枚）
- ・原稿に挿入した図・表・画像データ（jpg、png、ai等。必要な指示書・割付見本）については、査読により掲載が決定した後、編集委員会より提出を求める。

※大学院生およびHIRC研究員の単独執筆の場合は指導教員・受入教員による点検、第一言語以外による執筆箇所（外国語要旨を含む）においてはネイティブチェック^(註1)や文学研究科提供のプルーフリーディング等、第三者の校閲を原稿提出前に受けることを推奨する。

(註1)学内にも英文校閲補助制度があるので、積極的に利用してほしい。

※投稿原稿を受領した際には、編集委員会より投稿者に基本的にメールにて、3営業日以内に受領確認の回答をおこなう（土日祝は原則対応いたしかねます）。万一、回答のメールが送付されない場合は、改めて上記メールアドレスにご確認ください。

※投稿原稿が受理された場合、公開に至るまでの校正作業は、原則としてPDFファイル上で行うこととする。